

令和2年度第2回仙台市科学館協議会会議録

日 時 令和3年3月16日(火) 13:30~14:30

場 所 仙台市科学館特別展示室

出席委員 磯部裕子委員, 伊藤仟佐子委員, 加藤けんいち委員, 河野裕彦委員,
菅井研二委員, 高田淑子委員, 平吹喜彦委員, 松田佳歩委員(計8名)

欠席委員 庄子裕委員, 田中真美委員(計2名)

事務局 石川館長, 温参事兼副館長兼事業係長, 久米井主幹兼庶務係長,
西海枝主任指導主事, 青沼指導主事, 佐々木指導主事

議事要旨

1 開会

2 館長挨拶

3 会長挨拶

○河野会長が議長となり会議を進行

○議長より議事録署名人に磯部委員を指名

4 報告事項

(1) 新展示「地震はなぜ起こるのか?」について

○青沼指導主事から、新展示「地震はなぜ起こるのか?」について、資料1により説明

(質問等)

○河野会長

地震をどう測るかというのは、測った波形をその場でモニターに表示したのを見るということか。

○青沼指導主事

そのとおり。起こした揺れの波形をモニター上に表示している。また、金華山で観測した波形も同時にリアルタイムで見られるようになっている。

(2) 令和3年度事業計画(案)について

○西海枝主任指導主事から、令和3年度事業計画(案)について、資料2により説明。温副館長から口頭で補足説明。

(質問等)

○河野会長

プログラミング教室は、1回何人ぐらいでやっているのか。

○西海枝主任指導主事

昨年度までは10名でやっていたが、今年度の科学教室は子どもと保護者の6組で実施している。

○河野会長

パソコンなどにコンピューターゲームを入れたような形か。

○西海枝主任指導主事

スクラッチ（プログラミング言語の一種）である。プログラミングをしてロボットを動かし、動作を制御する。

○河野会長

それは分かりやすいから、確かに人気が出そうである。

○高田委員

常設展示展のほうで地震のメカニズムの話があったが、こちらのテーマは令和3年度、年間を通してやる企画か。

○西海枝主任指導主事

そうです。

○高田委員

地震の展示を実際に見てみたが、対象が中学生レベルなのか、高校生レベルなのかというのがすごく気になった。どういうところをターゲットにされて企画しているのか。

地震のコーナーはパネルの説明が多かったが、例えば海底地震計など、おそらく連携先の東北大学地震・噴火予知研究観測センターが持っているであろう実物をいろいろ見せられるところが科学館のいいところだと思うので、もっと沢山本物を見せられるような連携があるといいと思う。

○青沼指導主事

コーナーそのものについては実際に展示をご覧になられたとおり、大分難しい言葉が多々出てくる。地震を解説する上で外せない言葉が多く、あのような展示になっている。

コンセプトとしては、子どもがぱっと見て分かるような絵などビジュアル面で見てもらい、その補完をする形で保護者の方、大人と子どもが一緒に見て、大人が子どもに分かりやすく伝えるというものである。その中で世代間もしくは家庭間におけるコミュニケーションがとれるのではないかという狙いもある。

また、クイズ問題に関しては、小学生あたりの子どもが地震についてより深く学べるような内容で制作している。幅広い年代層の方々に見てもらい、その中で学んでもらうという狙いである。

○高田委員

解説だけではなくて、より多く本物が出せるような展示があるといいと思ったのでぜひご検討いただければと思う。

(3) 令和3年度特別展（案）について

○佐々木指導主事から、令和3年度特別展（案）について、資料3により説明（質問等）

○伊藤委員

この特別展の定員125名とは、延べで125名、その日1日で125名ということか。

○久米井主幹兼庶務係長

同時時間帯に会場に入れる人数が125名までということである。

○河野会長

レイアウト案のところで仕切りのような青い線が出ているが、これは天井としては抜けているのか。

○佐々木指導主事

展示室の横や後ろにある仕切り壁を使って仕切りをする予定である。

○河野会長

そうすると、空気の流れはそこで留まってしまうということか。

○佐々木指導主事

常時換気と、施工業者との最終的な話し合いにより、空気の流れや換気の様子は随時できるように考えていきたい。

○河野会長

二酸化炭素の濃度計を設置する予定だということなので、大体モニターは可能だということでしょうか。

○温副館長

補足すると、ここ特別展示室は密閉した状態から大体12分程度で空気が全部入れ替わる計算になっている。それと併せて、4面ある扉を開ける、工業ファンを使って強制排気するといったことを考えている。そうすると、12分より短い間隔で換気ができるだろう。若干暑くなるかもしれないが、そのようにやりたい。それでも駄目かどうかというところは、例えばCO₂濃度計で1,000ppm以上となれば一旦入場を止めて換気するといったことも考えている。

(4) 令和3年度科学館学習（物理分野）の授業開発（案）について

○佐々木指導主事から、令和3年度科学館学習（物理分野）の授業開発（案）について、資料4, 資料5および会議室中央に設置した実験装置を用いて説明（質問等）

○河野会長

分かりやすそうで、皆さんに喜んでいただけたらと思う。

(5) 展示リニューアルについて

○温副館長から、仙台市科学館展示リニューアルについて、口頭で説明

令和2年度当初から展示リニューアルの実施設計に入る予定だったが、コロナ対応について揺れ動いている段階で設計してしまっただけということもあり、令和3年

度に動かそうと考えている。

令和3年度もウィズコロナが続くのかアフターコロナになるのか、リニューアルオープンした時点がどのような社会情勢になるかは分からない。Go To イートで感染者が増加しまた中止するといった状況を見ると、慌てずにしっかり考えていくべきだと思っている。

かなりのお金をかけてリニューアルするのだから、コロナ対策が不十分なものでオープンし、世間の批判を浴びることは是非とも避けたい。しかしできる限り令和3年度内には終わらせたいとは考えている。

実施設計を進めるポイントとして、1つ目は基本設計を具現化すること、2つ目はアフターコロナ時代にふさわしい展示にすること、3つ目は、先ほど高田委員からも関連するようなご質問をいただいたが、誰向けかというところである。

解説は、基本設計の中にもあるがやはり中学生以上向けと、それから小学生向けとの二段階にデジタル技術を活用して解説するところをもっと推し進めていく。大体この3つをポイントに実施設計を進めていくことを考えている。

併せて、コロナでいろいろ大変なところではあるが、令和2年度も令和3年度もほぼ同程度の額の予算を確保している。経常的な経費、臨時的な経費込みで大体3億5,000万円前後で、新たな試みも追加でやっていけると思う。

コロナ対策もこういうものをもっとやったほうが良いというのが出てくれば、臨機応変に対応していくこともできるだろうと考えている。

(6) その他

(質問等)

○加藤委員

コロナ禍の影響で来館者数は前年度と比較してどうなっているのか、教えていただきたい。

○温副館長

今年度は特別展および理科作品展を中止しており、大体3～4万人程度は減になっている。それとあわせて修学旅行、特に福島、岩手、秋田県からの修学旅行生がほぼ皆無になり、1万人以上の影響が出ている。そのほかにも1か月の臨時休館、その後はステイホームの風潮もあり、例年より5～6万人は落ち込むのではないかと考えている。

そういう中でこの2月3月にかけて新しい展示をして、来館者を呼び込む努力を先ほどの資料のように始めていたところである。

○加藤委員

一昨年など、通常ベースだと来館者は何万人ぐらいなのか。また、先ほど令和3年度の事業計画(案)についてあったが、例えばコロナ禍の令和2年度はできなかったものを令和3年度は感染症対策をして前に進める際に、どのぐらいの来館者数

を目標に立てているか。

○温副館長

年間の入場者数、特別展、理科作品展を合わせると、おおよそ小学生以上で大体17万、小学校に行っていない未就学で3万弱、足して20万人というのがここ2～3年のコロナの前の例であった。特別展でどのぐらいになるか予想はつけにくいですが、これを一つの目標として、コロナ対策をしながらやっていきたい。

しかし、今年度は修学旅行で岩手、秋田の方々はほぼ来なかった。コロナが流行している宮城県に子供を行かせることへの不安の声も出てくると思う。宮城県は現在、人口当たりの感染率が全国2位という状況であり、その辺りの動向が一番大きなところである。

さらに夏に4波が来ていると、なかなか厳しくなると思う。できれば、平成30年度の数字に戻していきたい。ただ、コロナによって団体や特別展といった大きな単位の入館者数が万単位で動くということは当然あり得ると考えている。

5 事務連絡

年度替わりで委員の皆さまのご所属やご連絡先に変更がある場合は、変更届にてお知らせいただきたい。


次回の開催日程については今回と同様にメールで日程調整させていただく。

6 閉会

令和3年4月24日

議事録署名人

仙台市科学館協議会 会長

河野裕彦 

仙台市科学館協議会 委員

磯部裕子 